



海と日本PROJECT むなかたSDGs教室

事業報告書 2



—海の問題や地域の課題を自ら発掘—

「むなかたSDGs探究」

企画趣旨

現代社会は、変化が激しく予測が困難であるとされ、これからの未来を生きる若者たちは、予測が難しい問題に向き合い、課題を解決していく力が必要といわれます。文部科学省は、問題解決能力を育む教育方針を掲げ、PBL（Project Based Learning＝課題解決型学習）に重点を置くことを新学習指導要領で示しています。

宗像市の約60キロ沖には世界文化遺産・沖ノ島があります。ここ一体の海洋環境は、地域社会の生活と経済活動において重要な役割を果たしています。しかし、漁業資源の減少や海洋ごみの増加、観光と環境保全のバランスの必要性など、多くの課題に直面しています。「むなかたSDGs探究」は、次世代を担う中学生がこれらの課題を学び、具体的な解決策を模索することを目的とし、宗像の中学校でプログラムを実施しました。生徒たちは海の問題や地域課題について学び、どのような取り組みで自分たちの地域をよりよくしていくことができるのかを考え、実現を目指しました。



実施概要

- プログラム名 むなかたSDGs探究
- 期間 2024年9月～2025年3月（授業枠数計36コマ、その他販売会イベント2回、放課後のゼミ実施）
- 参画校 宗像市立中央中学校／河東中学校／自由ヶ丘中学校
- 協力 (株)ミエタ、(株)スチームシップ、(株)ベンナース、(株)MAGOME
- 参加者 中央中1年生152名、河東中2年生240名、自由ヶ丘中2年生136名、3年生144名、各校教職員
- 実施内容

実施準備	<ul style="list-style-type: none">・カリキュラム構築／授業枠調整・教材のカスタマイズ／ゲスト講師との調整
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none">・プログラムの目的やゴールの説明・簡単な個人ワークやグループワーク
ゲスト講義	<ul style="list-style-type: none">・講師による講義とグループワーク（ディスカッション）・講師から全体へのフィードバック
グループワーク	<ul style="list-style-type: none">・グループワーク（プレゼンテーション作成）・プレゼンテーション練習
プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none">・グループ毎のプレゼンテーション・講師からのフィードバック、全体総評
発展ゼミ	<ul style="list-style-type: none">・社会実装に向け外部機関との生徒主体の取組みをサポート

<カリキュラム構築>

1. 単元

2. 単元目標

地域の環境を守る取り組み ～私のふるさと宗像市の環境を守るために私たちにできること～

環境問題についての学習を活かし、宗像の環境のために自身ができることを実践し地域に還元する

<単元計画資料抜粋>

3. 単元計画…10 時間 ※文化祭での発表を含む

課題設定	学習内容	めあて・目標	手立て・活動	目指す生徒像	準備等
1	水俣学習の振り返り	水俣での学習をふりかえり、水俣病の原因は何だったのかを考え、単元を通して学習課題を設定する	・事前にアンケートを取り、水俣病の原因についてキーワードを挙げておく ・キーワードをもとに、水俣病の原因についてダイヤモンドワンキングをつくる ・自分たちの生活の背景に生じている環境問題を考える	水俣で学習したことをもとに、自らの生活が地域の環境に影響を及ぼしていることが理解できる生徒	・キーワードについて、人々の豊かな生活があったことにつながるものをピックアップしておく。 ・ダイヤモンドワンキングは用紙に張り付ける形のものを用意しておく
2	地域の課題を見つける	宗像市の環境を守るために、自分たちができることを考える	・外部講師を招き、宗像の環境の良さを再認識する ・宗像で起きている環境問題について調べる(外部講師依頼?) ・自分たちにできることについて、意見を出し合う	地域の環境への愛着を抱ける生徒 地域の環境が抱える課題に対し、自ら行動しようとする生徒	・ゴミ問題につながる内容やB5Rに触れてもらう ・できることについて、意見を出す場を設ける、もしくは事後にアンケートをとる
3	自分たちが取り組むを考える	具体的な取り組みとその意義を考える	・あらかじめ用意されているリソース、リサイクルの取り組みの中から、探でしたい取り組みを選ぶ ・地域の環境のために活動することを念頭に、誰も基準をいくつか定め、座標軸を用いて近で適切だと思うものを決定する	既習内容を活かし、地域の環境のためにできることを考えられる生徒	・リソース・リサイクルの取り組み ○裏紙や展づくり ○包装紙でつくるが手袋 ○コースター製菓作り ○ペットボトルでつくるビニール袋ストッカー →それぞれ制作力の難易度などを準備しておく ・選ぶ基準を考える際の手立てを用意しておく ・座標軸はホワイトボードを使用する
4	取り組みを実践する	リソース・リサイクルの取り組みを実践し、地域に還元する方法を理解する	・作成するものに応じて教室を分け、周囲と協力しながら作成する ・地域に還元する方法を提案する	地域に還元するために活動ができる生徒	・作成時間は 40 分程度 ・作り方や取り組みの背景をまとめたポスターと一緒に市役所や学校に作成物を届けることを伝える ・プレゼンテーションを作成し、文化祭でクラス代表が発表することを伝える
5	プレゼンテーションの準備	学習した内容をポスターとプレゼンテーションにまとめる	・題の中で作成したものと一緒に使用するポスターを作る生徒と学習したこと活動を進めとめるプレゼンテーションをつくる生徒に分かれる ・ポスターとプレゼンテーションの構成について、外部講師からアドバイスをもらう	全学習をふりかえり、相手に伝える情報を選択し、適切な表現ができる生徒	・環境問題に詳しい大学生にプレゼンテーション、ポスター作りのアドバイスをしてもらう ・構成のアドバイスを及び作成を 2 時間連続で行う
6	発表	各々がクラスで発表し、文化祭での発表者を決める	・班ごとに作成したプレゼンテーションで発表を行い、クラス代表を決める	役割分担を行い、相手に伝えたいことを適切に表現できる生徒	・クラス代表プレゼンテーションを選ぶときの視点 ○水俣で学んだことがまとめられているか ○宗像にある環境問題について説明し、自分たちが見つけた課題に触れているか ○自分たちが行った取り組みを分かりやすく説明しているか ○取り組みの成果と課題について触れているか
7	文化祭での発表	プレゼンテーションを用いて発表する	・代表者は文化祭の場で発表する ・作成したプレゼンテーション資料、ポスターの写しを多目的に展示する(全で)	自分自身の生活が環境に与える影響を理解し、地域の環境を守りたいという意志のもと環境に配慮した考え方をもち、地域のために行動しようとする生徒	・発表者については発表原稿を作成する

<教員との打合せ用資料抜粋>

宗像市立中央中学校様

海プロ授業プログラム(案)

2024/8/8

株式会社ミエタ

MIETAN プログラム 講師候補

「水質改善」と関係のある「漁業」を中心とした海の問題に向き合い、そこを起点としたアウトプットを行う

主要事業 MIETAN とは

“社会をつくり、社会でいきる”探究とキャリア(進路)を多様な専門家と共にトータルプロデュース

コーディネーター

カリマナ・探究や進路指導の専門家

講師

多様な各分野の専門家

ファシリテーター

プログラム・授業運営の専門家

MIETAN プログラム 講師候補

“あったらいいな”を形にするまちづくり

MIETAN プログラム

「総合的な探究の時間」の指導要領に沿った学習プロセスをMIETAN独自の6ステップに再構成したプログラムをご用意

課題の設定

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現

今後の日程

河東中学校

<カリキュラム構築>

- | | |
|---------|--|
| 1. 単元 | 仕事の魅力、地域の課題を他者に発信し、自己を見つめる |
| 2. 単元目標 | 実際に働いている人に話を聞いたり、職場で働いたりすることで、地域の良さや働く上で大切だと思ったことを発信する |

<單元計畫資料抜粹>

<教員との打合せ用資料抜粋>

次	時	学習活動(数字)・内容(O)	手立て
第一次	8	<p>1 働く意義や自分の適性を学び、職場体験学習への見通しを持つ。</p> <p>(1) 働く上で大切なことについて講師の方々の話を聞く。</p> <p>○ 仕事内容、やりがい、苦労、マナーなど</p> <p>(2) 自分の適性を知り、自己PRを考える。</p> <p>○ 長所や得意なことなど、自己を知る</p> <p>(3) 職場体験を行う事業所へ訪問し、打ち合わせ</p> <p>学習課題Ⅰ 自分の適性を知り、職場体験学習での目標を作る。</p> <p>(4) 職場体験学習の目標を設定する。 【めあての自己決定】</p> <p>○ 相手意識を持った目標の設定</p>	<p>※ 受けていない講座の内容を全体で共有するために、各クラスで事業所ごとにスライドを作成して発表を行う時間を設定する。</p> <p>※ 自分のよいところや職業の適性を確認できるように、職業適性を確認するWeb</p>
	1	<p>2 職場体験学習を行い、勤労観や職業観を学ぶ。【学び方の自己決定】</p> <p>(1) 目標に対する評価を行い、次の日の目標を決定する。</p>	<p>※ 仕事内容などを確認した上で目標を設定するために、事業所に訪問する時間を設定する。</p> <p>※ 職場体験学習の目標を達成するために、振り返りができるプリントを用意する。</p>
第二次	8	<p>学習課題Ⅱ 事業所の魅力をまとめ、自分の今後を見つめよう。</p>	
第三次	1	<p>3 職場体験学習で学習したことを発信する。 【伝え方の自己決定】</p> <p>(1) 仕事内容や自分の今後について整理・分析を行う。</p> <p>(2) 外部の方からスライド等のもため方を学ぶ。</p> <p>(3) 事業所ごとに計画を立て、内容をまとめる。</p> <p>○ 原稿作成、スライド作成など</p> <p>(4) 発表を見合い、交流する。</p> <p>○ 発表内容の良さ、改善点など</p> <p>(5) 発表会でプレゼンテーションを行う。 (本時) 35/37</p> <p>○ 職場体験学習の感想、地域にある事業所の良さなど</p> <p>(6) プレゼンテーションの内容をまとめたものとともに事業所へ届ける。</p>	<p>※ 自分の考えを整理・分析できるようにJamboard等を使う。</p> <p>※ よりよいプレゼンテーションが出来るように、外部の方を招く。</p> <p>※ 聞き手を意識した発表にするために、別グループを評価し合う機会を設定する。</p> <p>※ 聞き手に分かりやすいように、伝える手段をグループで選択できるように指導する。</p>
	1	<p>【何がわかる・できるようにするか】</p> <p>・ 働くことの意義や職業、自らの適性について理解することができる。【知識及び技能】</p> <p>・ 職場での体験を通して、勤労観や職業観について自ら考えてまとめ、他者に分かりやすく説明することができる。【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>・ 働くことについての主体的、協働的に課題解決に取り組み、自らの将来や今後の生き方に生かしていることとしている。【学びに向かう力、人間性等】</p>	



自由ヶ丘中学校

中央中学校1年生は9月6日、未利用魚を有効活用しているベンチャー企業「ベンナーズ」(福岡市)の井口剛志社長から、地域資源の活用について話を聞きました。井口さんが創業したベンナーズは、廃棄されてしまう魚を有効活用する事業を行っています。井口さんは「起業で一番大事なのは誰かの課題を解決すること」と話し、「学んだ知識が世界をより良くします。知的好奇心を持ち続けてほしい」と生徒たちを激励しました。



<オリエンテーション・講義資料抜粋>



ゲスト講義

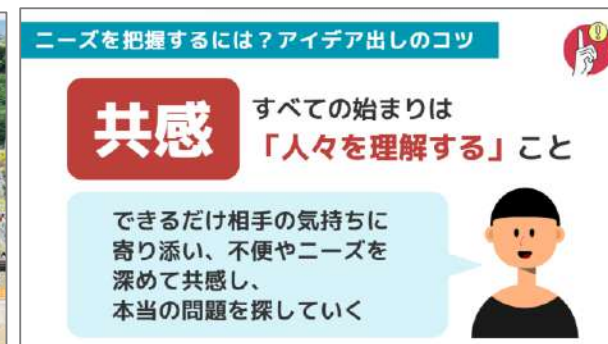
河東中学校

9月25日 株式会社MAGOME 代表取締役 馬込 賢太郎 氏
株式会社スチームシップ デザイナー 藤澤 姫奈 氏

河東中学校2年生は9月25日、日の里団地再生プロジェクトや鐘崎漁港の活性化に取り組む馬込賢太郎氏と“地域の宝探しカンパニー”「スチームシップ」（長崎県波佐見町）の藤澤姫奈氏から、実際の事例など話を聞きながらグループワークに取り組みました。講師からは、地域の「宝」について、直接足を運び、徹底的に調べて情報を収集。魅力を深掘りすることで、発信の仕方が見えてくるとヒントをもらいました。



<オリエンテーション・講義資料抜粋>



自由ヶ丘中学校3年生は9月26日、地域の魅力を全国に発信するサポート事業などを行う“地域の宝探しカンパニー”「スチームシップ」(長崎県波佐見町)の藤山雷太氏から、商品の宣伝表現や販売戦略の立て方についてヒントをもらいました。「仲間がいるから大きなプロジェクトが達成できる。皆さんも仲間と本気で向き合ってほしい」と鼓舞しました。



<オリエンテーション・講義資料抜粋>

地域の隠れた“タカラ”の探し方・届け方

Mission!

開発した商品の魅力を存分に表現し、多くの人に宗像特産のチョコレートを届けよう！

テーマ及び講師紹介

地域の隠れた“タカラ”の探し方・届け方

講師 株式会社スチームシップ

「地域のブランド価値を上げていく」ことを目標に、ふるさと納税の返礼品の企画や販路を開拓を行う「地域の宝探しカンパニー」スチームシップ社からの講義を受けて、宗像の特産品で開発したチョコレートの魅力をどのように取り上げ、伝えていくかを学びます。その魅力を存分に表現し、販路開拓を立てて実行していきます！

大目的

「探究」で自分と社会とのつながりを楽しく考える

ワークの種類と進め方

これから取り組む課題では個人ワークとグループワークを行います。

個人ワーク

- 基本的には1人で進めて、じっくり考えたり調べたりする時間

グループワーク

- 自分で考えたり調べたりしたことをグループで共有する時間
- みんなで出した意見やアイデアについて話し合う・確認するディスカッションする時間
- グループワークの進め方は、自分たちで決めて進めていくことが大切です。

グループワークは役割分担をして進めよう

- 自分の役割は何か、自分の役割をどうやって進めていくかを考えておくことが大切です。
- 自分の役割をどうやって進めていくかを考えておくことが大切です。

MC : 進行役

- 一人ずつ意見を述べることを促すなど、議論の流れをコントロールして、グループ全体で活発な議論ができるように進行する。

メモ係 : 記録役

- 発言内容や決まったことをグループメンバーが見える形でメモを取る。

タイムキーパー : 時間管理役

- 議論全体の時間の半分(10分)～5分前～1分前まで、各議題のタイムアップを行い、議論の進み具合をグループ内で確認する。

フォロー役 : 確認役

- グループワーク中に疑問点や意見を出し、他の役割をフォローする。

場合によっては他のグループを聞いてどんな課題に取り組んでいるのかなど確認してもOK!

9月26日、地元の鐘崎漁港の活性化に取り組む馬込賢太郎講師が中央中学校に来校しました。馬込さんは鐘崎漁港や漁業に関する課題を紹介。漁業従事者が年々減少し、平均年齢も上がっていることをグラフで示しました。一方で、鐘崎漁港の活性化に向けた動きもあるといいます。生徒たちは、宗像市の地理的環境や特徴などを踏まえて、ほかにもどんな課題があるのか調べました。



<オリエンテーション・講義資料抜粋>



どんな課題を取り上げる？

- ✓ 海のゴミ問題
- ✓ 海水の汚れ
- ✓ 里山の減少
- ✓ 気候変動による海面上昇

など・・・課題はたくさん

シート①-2

共有されたURLリンクに飛んで今まで学んだ以外に宗像市にはどのような課題があるかを考えよう！

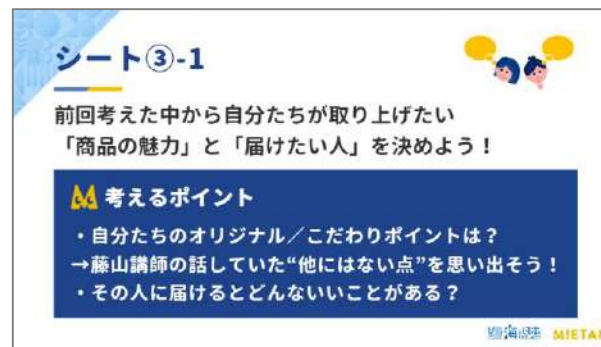
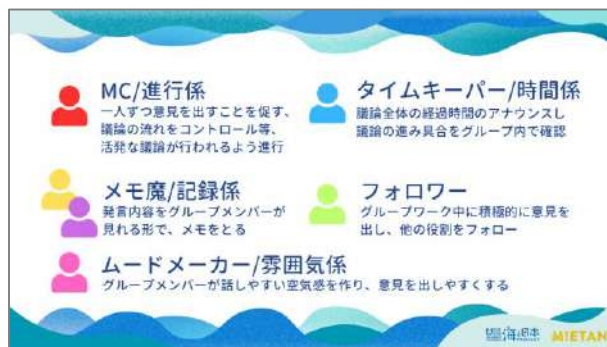
考える上でのヒント

- ・馬込さんのお話を思い出してみる
- 農林業/漁業ではどんな課題があった？
- ・資料のp.24あたりを参考に「弱み」から課題を考えてみる
- ・p.26の課題まとめからヒントをもらう

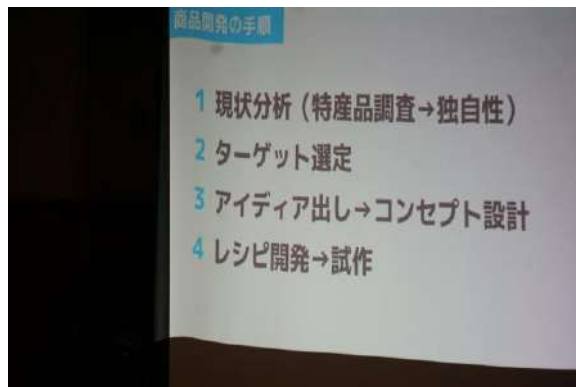
10月2日、株式会社スチームシップでディレクターサポートを務める齋藤桃香講師が自由ヶ丘中学校に来校しました。講師は地域産品などの魅力を届ける業務に従事しており、「まずは『誰に、どの魅力を、どのように伝えるか』を考えること」と説明しました。生徒たちは、開発した商品の特長を再確認しつつ、販売会では「宗像の特産品を使っていることを伝えたい」など、グループの中でさまざまな意見が飛び交いました。



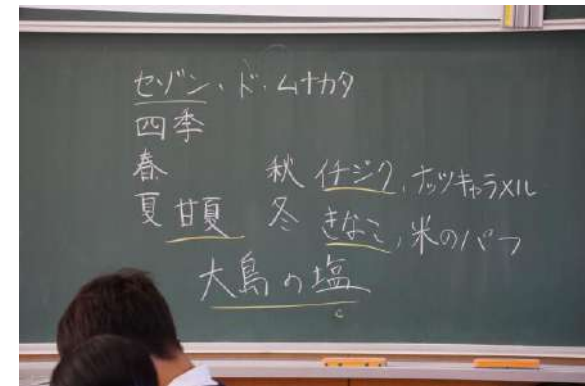
<オリエンテーション・講義資料抜粋>



10月7日、地元の鐘崎漁港の活性化や団地の再生に取り組む馬込賢太郎講師が自由ヶ丘中学校に来校しました。自由ヶ丘中学校2年生は、地元食材を活用したメニュー開発に取り組んでいます。この日は馬込講師から、商品開発の手順やニーズの把握方法について話しを聞きました。講師からは「地元特産品を調査し独自性を見出すこと」「アイデアを寄せ合ってコンセプトを設計すること」とヒントをもらいました。



10月25日、株式会社スチームシップでデザイナーを務める荻島菜月講師、藤澤姫奈講師が自由ヶ丘中学校に来校しました。講師は、ウェブサイトやカタログデザインを担当しており、販売会に向けたチラシや宣伝用ポップを作るコツを生徒たちに教えました。「誰に向けて、何のために、何を伝えたいかが起点。アイデアに困った時は起点に立ち返る」と話し、生徒たちが考えてきたことを基礎に進めることの重要性を伝えました。生徒たちは、議論を重ねてきた販売戦略をいかしつつ、チラシをデザインし、接客時の商品紹介の方法もマニュアルに落とし込みました。



<オリエンテーション・講義資料抜粋>

①呼び込み方法を考える



- ・誰に声をかけるか
→ターゲットは誰？
- ・どこで声をかけるか
→ターゲットがいそうな場所は？
- ・どんな言葉で足を止めてもらうか
→何が刺さる？
- ・足を止めてもらってから何を話するか
→どうしたらブースに行ってくれる？

MIETAN

②手に取るチラシを制作する



- ・誰に配るか
→ターゲットは誰？
- ・どこで配るか
→ターゲットがいそうな場所は？
- ・チラシに必要な情報はなにか
→何が書いてあると刺さるか
- ・ブースに足を運んでもらう仕掛け
→チラシを見てどうしたらブースに行こうと思えるか

MIETAN

③ブース内の企画を考える



- ・ブース内でどんな体験ができるか
→ターゲットは誰か？
その人は何ができるか
足を運んでくれるか
- ・その企画をする上で必要なものは何か
→ブース内にどんな場所が必要？
- ・どのようなブース設計にすると良いか
→何を一番目立たせるか

MIETAN

④商品紹介のPOPを制作する



- ・必要な情報は何か
→購入する上で必要なことは？
- ・伝えたい情報は何か
→届けたい魅力は何か
- ・どんな言葉で伝えるか
→キャッチコピーは？
- ・どのようにブース内に引き込むか
→目を引く方法は何か

MIETAN

10月31日、自由ヶ丘中学校3年生はJR博多駅構内コンコースでの販売会に向けたリハーサルを行いました。生徒たちが開発に携わったオリジナルチョコレート「Saison de Munakata (セゾンドムナカタ)」は、宗像の四季を表し、4種類それぞれに宗像の特産品が含まれ、すべてに「大島の塩」が使用されています。生徒たちが制作したチラシやポップ、販売マニュアルを使い、多くの人に宗像の魅力が届くように取り組みました。



<作成したチラシ・購入御礼カード>



10月、各参画中学校にてそれぞれプレゼンテーション資料作成のための講習を実施しました。株式会社ミエタの島川氏がファシリテーターを務め、課題の設定から、プレゼンテーション資料作成の手順、プレゼンテーション時のコツなどを伝授する授業を実施しました。

<講習用スライド抜粋>

①伝える 課題を知って行動するきっかけをつくる
例：〇〇に掲示するポスター

②体験する 課題と関連した活動を体験してみる
例：海での〇〇活動／〇〇の回収活動

③試してみる 自分たちのアイデアを試して検証してみる
例：〇〇の調査や実験

MIETAN

提案を選ぶ基準

- 1 喜ぶ人がイメージできるか
→その提案をすると、誰に、どんないいことがある？
- 2 ほかの提案よりもこの提案がいい！という理由はあるか
→他の提案との違いやこの提案ならではの点は？
- 3 本来の目的＝課題解決に近づくか
→そもそもどんな課題を解決したいのか？立ち返ってみる

MIETAN

グループワーク

提案を具体的に考えて、
プレゼンテーションに
入れる情報を整理しよう

MIETAN

A. 取り上げる課題
課題がどのくらい重要で、自分たちや周りの人々の関心
を引くテーマか、課題を掘り下げてみる。

B. 提案
課題がテーマに関連する問題点を、具体的な解決策を
提示するアイデアを提示する。

C. 具体的なイメージ
提案がどのような活動や行動につながるのか、具体的な
イメージを言葉で表現する。

D. アピールポイント
提案の魅力を一言で表現する。相手に伝わるように、
短くまとめる。

・海のごみ問題
1年間に●トンのごみ
キレイな海を保つには？

**ビーチをキレイにする
清掃活動**

・対象は宗像の小学4-6年生
・親子で参加できる
・ゲーム形式

**親子で楽しみながら
体験することができる**

MIETAN

プレゼンテーションとは

情報やアイデアを
資料や話し方を工夫して

相手にわかりやすく伝える方法

MIETAN

提案の具体例

楽しみながら海の環境問題を考えるイベントを開催する

目的：海の環境問題を知る／体験する
いつ：夏休みの日曜日、昼間
誰が：小学4年生～6年生とその保護者
どこで：玄海の家
何を：ゲーム形式で楽しみながら、
海岸をキレイにする清掃活動を体験する

MIETAN

スライドのポイントを意識

- ①自分の言葉で表現しよう
- ②引用元を書こう
- ③文字はできるだけ少なくしよう

MIETAN

雰囲気づくり

聞く側の姿勢は？
話し手を見て頷く、反応する
話終わったら大きな賞賛の拍手を
「また話したい」
**雰囲気作りが
プレゼン力UPに！**

MIETAN

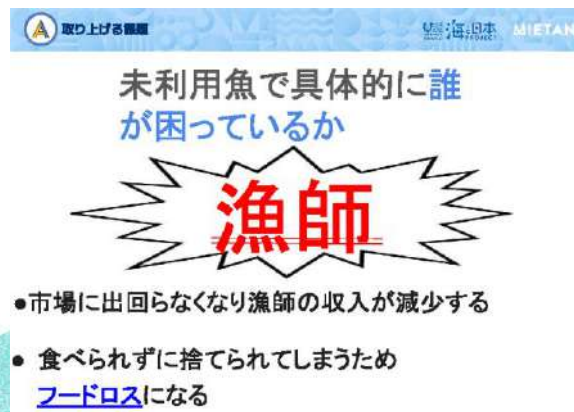
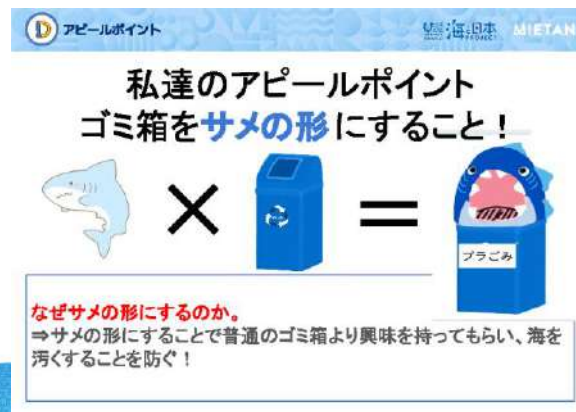
河東中学校2年生は10月25日、研究発表会に臨みました。各教室にグループ毎のプレゼンブースを設けて、来校した教職員の方々に地域の仕事の体験と地域課題の解決策「あったらいいな」を発表しました。29日には馬込講師と藤澤講師が来校。各クラスの代表グループがプレゼンに挑みました。講師は、「素晴らしいアイデアで、ぜひ実現に向けて動き出してほしい」と講評しました。



中央中学校1年生は10月31日、グループでまとめた解決策の最終発表に臨みました。これまでの授業で講師を務めた馬込賢太郎さんも来校し、発表を聞きました。生徒たちは、ごみの削減や未利用魚の活用など練り上げた企画案を提案。各プレゼンを聞いた馬込さんは、「課題に対し、楽しく解決するという提案が素晴らしい」「おもしろい内容なので協力してくれる人たちもいるはず。ぜひ実現してほしい」と発表内容を高く評価し、次のステップに向けて背中を押しました。また、授業を担当した花田尚子教諭からも「プログラムが始まった当初は、これほどのプレゼンができるとは思わなかった」と、約2ヶ月にわたって、プログラムに取り組んだ生徒たちの成長ぶりに目を丸くしていました。



<生徒発表スライド抜粋>



11月13日、自由ヶ丘中の3年生が商品開発したオリジナルチョコレートの販売会がJR博多駅中央改札口前特設コーナーで開催されました。生徒たちが販売を担当し、宗像の産品を使ったチョコ4種類のセット「セゾン・ド・宗像」をPRしました。自作のチラシや宣伝用ポップを使いながら商品をPR。足を止める人に試食をすすめ、オリジナルチョコのこだわりを説明する生徒たちの姿もありました。計800セットが完売しました。



中央中学校の1年生は、プレゼンした内容が実社会で活用されることを目指し、発展ゼミとして継続して取り組みました。中心となる生徒で実行委員会を形成し、昼休みや放課後等の課外の時間を使って、ミエタ島川さんのサポートを受けながら学外の方々とやり取りし、ごみ箱の設置やポスターの掲示など交渉を重ねました。実際に奇抜な形のごみ箱やポスター制作まで行いました。



自由ヶ丘中学校の2年生は地元の食材調査やメニュー開発、試作に取り組んできました。今回学んだ宗像の食材を多くの人に伝えたいと考え、PRイベントを道の駅むなかたで実施することを企画。イベントに向けて、チラシを作成して配布するなど準備を進めました。2月28日のイベント当日は、考案した商品を生徒みずから販売。「いのししバーガー」「ブリ入りアカモク素麺（そうめん）」などのほか、エコバッグといったオリジナルグッズも。地元野菜をふんだんに使ったカレーピザは、焼きたてを生徒が陳列するとあっという間に売り切れました。



—大学生と海の課題解決を考える座談会—
「宗像国際環境会議学生分科会」



玄界灘の海水温度の上昇により沿岸部に広がる磯焼け、漂着ゴミ（マイクロプラスチック）の問題を中心に「海の鎮守の森」構想を掲げ、海の再生事業に取り組みながら、近年の急激な海の変化への提言や情報を国内外に発信するため、宗像大社、宗像市を中心とする組織として2014年に設立。毎年海の環境問題などについて議論する会議を開催し、2024年で11回目を迎えました。
<https://www.munakata-eco.jp/>

本会議の開催に合わせて、大学生20人が集まるワークショップに加え、中央中の7年生152人とともに双方の学びを深める交流を行いました。中学生のプレゼンを受けて、大学生のアイデアや意見を交換し、中学生発案の企画のブラッシュアップに取り組みました。

概要

- 企画名 宗像国際環境会議学生分科会
- 日時 2024年10月11日(金)10:00-16:00
- 場所 午前の部：宗像大社 清明殿
午後の部：宗像市立中央中学校 体育館
- 参加者 県内大学生20人、中央中7年生152人
- 内容 午前の部：宗像市の海洋環境について考え、宗像市の豊かな海を残すために
できることを考えるワークショップ
午後の部：中学生の学習内容のプレゼン。大学生との意見交換

<宗像市ニュースリリース>



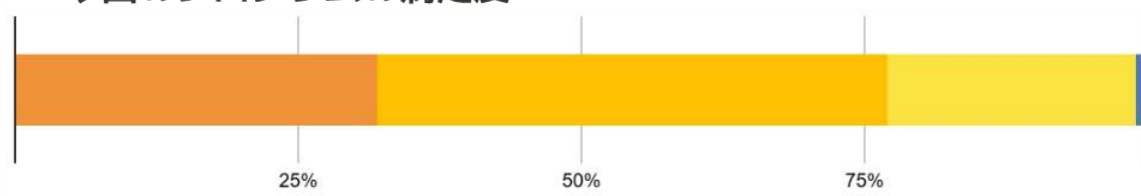


アンケート（生徒・教員の声）

生徒事後アンケート結果（全体サマリ・中央中学校）

＜今回のプログラムの満足度＞

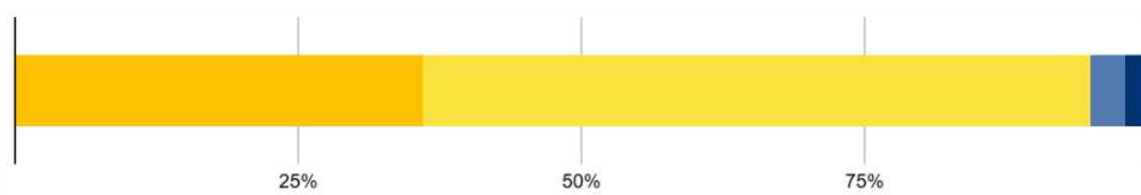
5 4 3 2 1



満足度平均：4.08

＜講義とワークの難易度＞

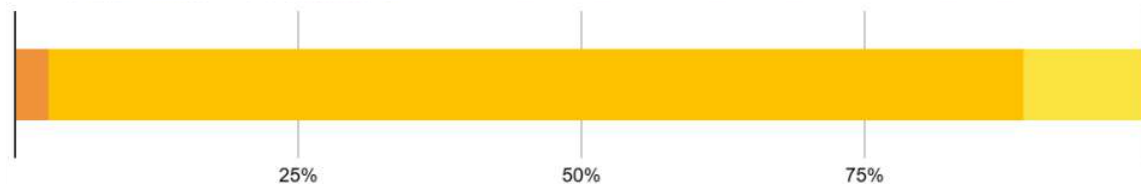
難しすぎた 程よい難しさだった 普通だった やや簡単だった 簡単すぎた



簡単すぎた理由：いつも発表をしているから

＜行事全体の時間設定＞

長すぎた 適切だった 短すぎた



長すぎた理由：同じことを繰り返しているような気がしたから

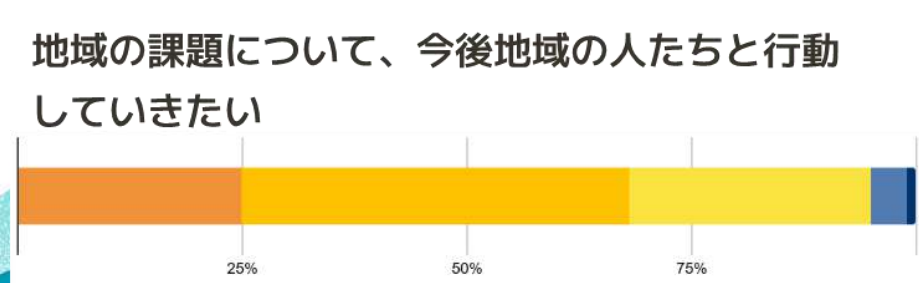
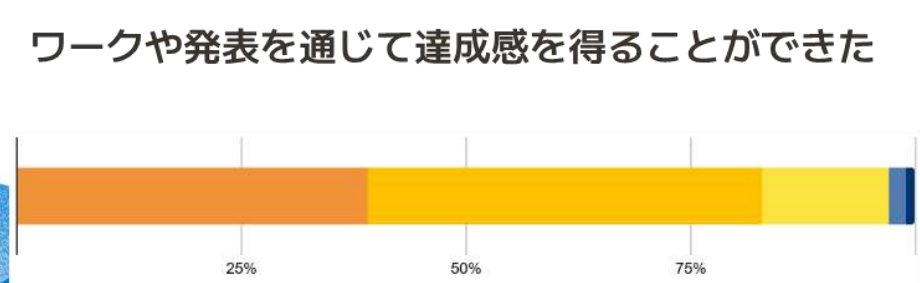
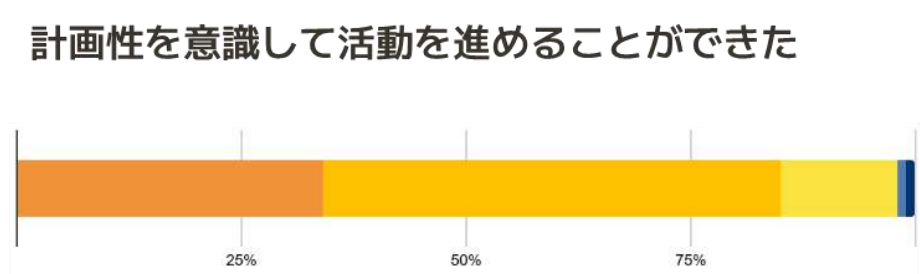
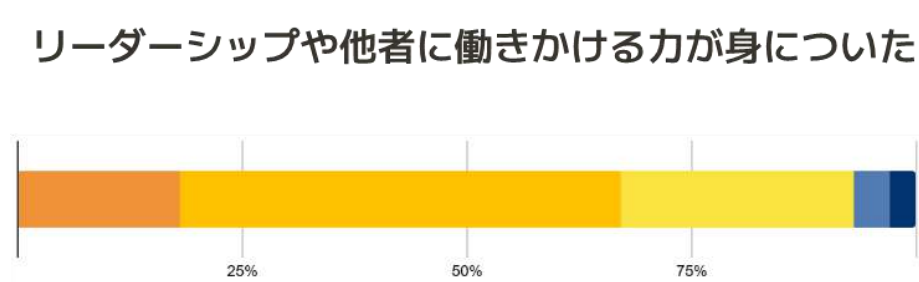
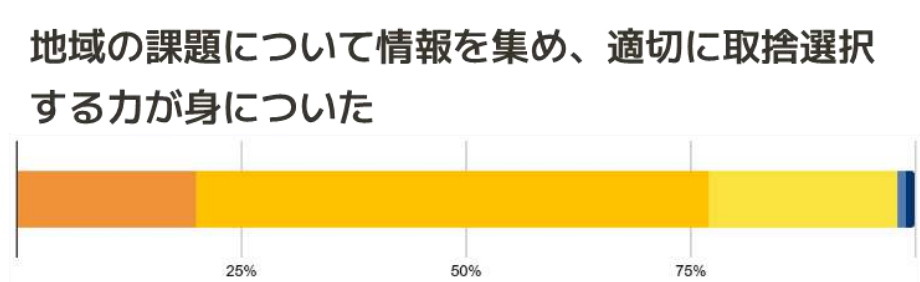
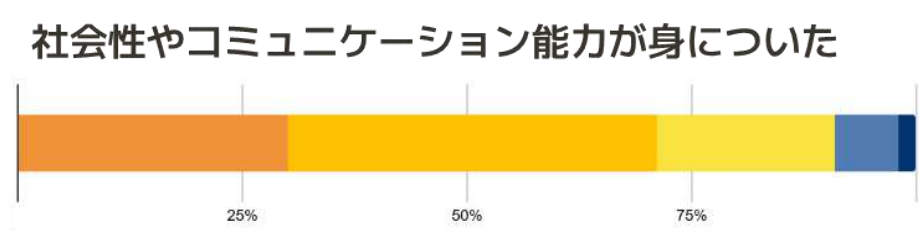
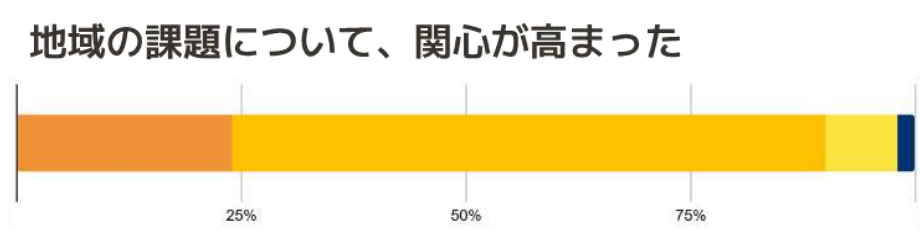
短すぎた理由：地域の課題などについてもっと調べたりしたいなと思いました
もう少しみんなとの意見を交流し、楽しみたかった

＜雑感＞

プログラム自体は高い満足度で、難しさを感じている生徒も多かった。生徒たちの主体性を引き出すワークが中心で、自分自身でやり方を模索したり、コミュニケーションを取る必要があったため、通常授業にはない緊張感と達成感があったと推察される。

生徒事後アンケート結果（プログラムを通じて体得したこと・中央中学校）

■ とても思う
 ■ そう思う
 ■ どちらとも言えない
 ■ そう思わない
 ■ 全く思わない



プログラムを通じて得た学びや新しい発見、心に残ったこと

めちゃめちゃ褒めてもらったすごく嬉しかったです。

大学生の方とか市役所の方とかなどともあまり関わる機会が少ないので新鮮で貴重な体験でした。

私はあまり人の前にでて話すことが全然なくて緊張したりして、選ばれないだろうなと思っていたけど、まさかのまさかで選ばれたのでとても嬉しかったです。本番は最初のクラスの発表と違って人数も増えたし、先生やしましまなどがみていてとても緊張しました。だけど、班のみんなが「頑張ろう！」と勇気づけてくれて、最後までやることができました。なのでとてもいい経験だったと思います。

世界中にはゴミや環境を壊すものがいっぱいあるから自分たちが考えて行動することが大切だと学びました。

自分たちで話し合っって考えをまとめて、それを大人の方々に発表するという事は私にとって初めてだった。だからプレゼンづくり・発表が心に残った。

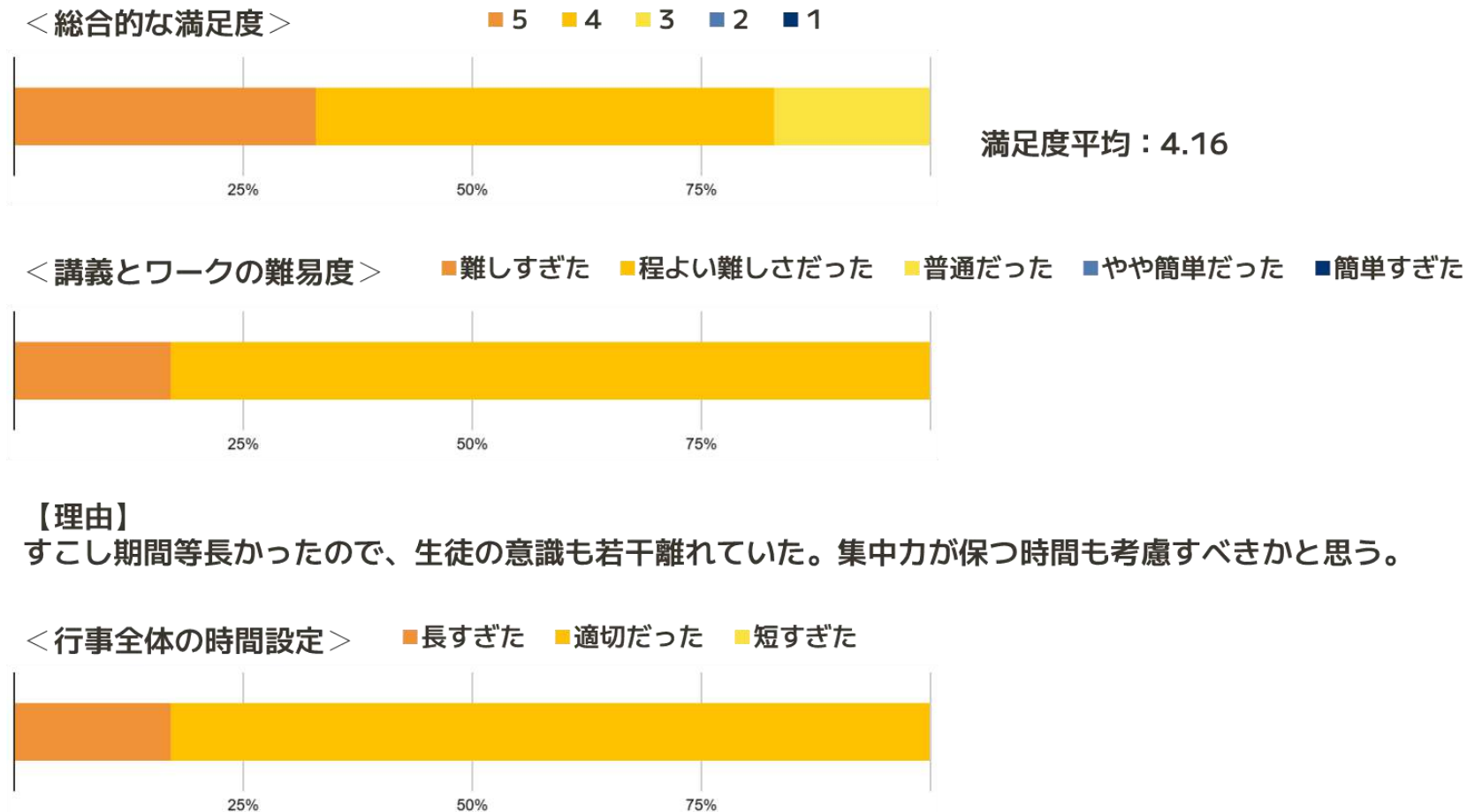
プレゼンを作るなら現地に行って写真などを貼り付けたらより効果的というのを学んだ。

もっと学びたかった・聞きたかった・やりたかったこと

漁協の人たちと協力して未利用魚の販売とレシピを書いたチラシの配布

宗像では具体的にどのような取り組みがされているのか

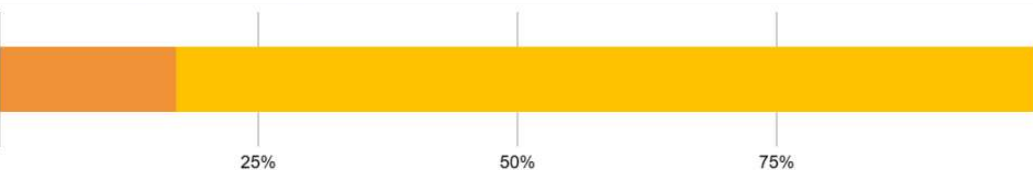
教員事後アンケート結果（中央中学校）



【理由】

すこし期間等長かったなので、生徒の意識も若干離れていた。集中力が保つ時間も考慮すべきかと思う。

＜行事全体の時間設定＞



【改善点】

話し合いの説明の時間が必要なほど学力が低いので、もう少し簡潔に何を考える・どうするが具体的であればよかったかと思う。補佐的に教員が回るには時間が足りず、見れていない生徒がそのままになっている状況であった。

＜雑感＞

プログラムへの満足度は高く、難易度も適切であるとの評価。プログラムの期間は少し長さを感じており、生徒の集中力維持の課題が示された。また、学力が低い生徒へのサポートに関して、もう少し簡潔で具体的な示唆を与える場面も必要だった。

今回の講義を通じて期待できる生徒たちの変化や影響について

未利用魚や海洋ゴミについて関心がなかった生徒がほとんどだったと思いますが、知らなかったことを知り、解決策を具体的に考える活動をしたことで、興味関心をもって自分に何ができるかを考えたり行動に移したりできるようになっています。

情報を集め、まとめる力がついたと思います。また、生徒アンケートでは、総合の学習前と比べて地域の課題に対する関心や解決したい気持ちが高まったと感じている生徒が全体の7割を超えていました。地域の課題を解決しようとする意志をもった生徒が今回のゴール像なので、その生徒の姿には近づけたのではないかと思います。

今後の授業に活用できそうなポイント

スライドを使って、班で協力して1つのものを作り上げることができたので、活用できればと思う。

プレゼンテーションの使い方についての説明が分かりやすかったです。今後もプレゼンテーションを作成する際に説明資料として使わせていただけるとありがたいです。大学生を交えた座談会が非常に好評でした。協力していただける団体がいらっしゃるのであれば、今回のような中間発表の場は継続していきたいと思いました。

今後の探究学習に関するご要望

中央中学校が現在主題研究を総合的な学習の時間にあてているため、探究学習の流れを「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の段階に則るかたちにしていただけると良いかと思います。
3年間を通して最終的なゴールにつながるような授業づくりを考えていただけると嬉しいです。8学年は就労についての総合を行うため、地域の課題と結び付けるために、CSRなどについて学びながら、地域の課題に企業がどのように向き合っているのかを学べるようにしたいと思っています。

講義やワークに関するご要望

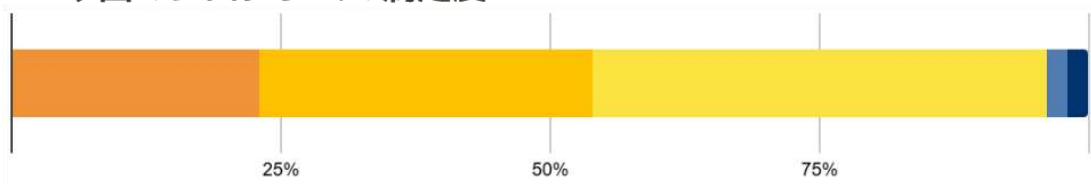
ワークはもう少し中学生に向けた言葉づかいで、より具体的な指示がよい。

今回、様々なGTにお越しいただいたことで生徒の知見が広がりましたが、宗像市以外にも当てはまる問題に生徒の興味関心が移ったように思います。GTの方の講義の内容等については、早い段階での打ち合わせが必要かと思いました。

生徒事後アンケート結果（全体サマリ・河東中学校）

＜今回のプログラムの満足度＞

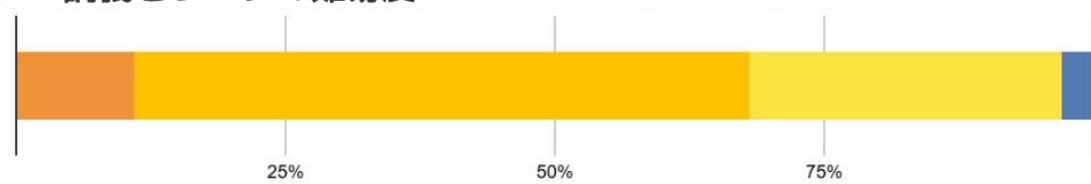
■ 5 ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1



満足度平均：3.69

＜講義とワークの難易度＞

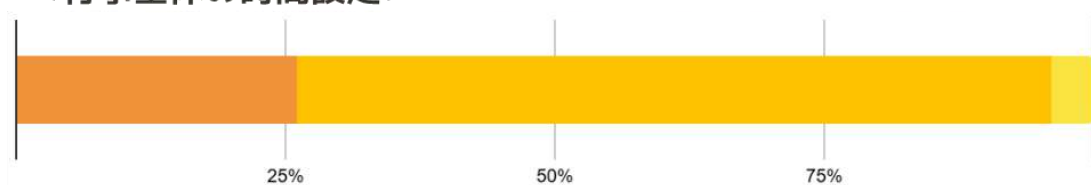
■ 難しすぎた ■ 程よい難しさだった ■ 普通だった ■ やや簡単だった ■ 簡単すぎた



難しすぎた理由：考えたことがないことが多かったから / アイディアがすぐには浮かばなかったから

＜行事全体の時間設定＞

■ 長すぎた ■ 適切だった ■ 短すぎた



長すぎた理由：ずっと話を聞いているのがきつかった
スライドを作って練習も終わって時間が結構余ったから

短すぎた理由：アイデアを考える時間が足りなかったから・全員発表できなかったから

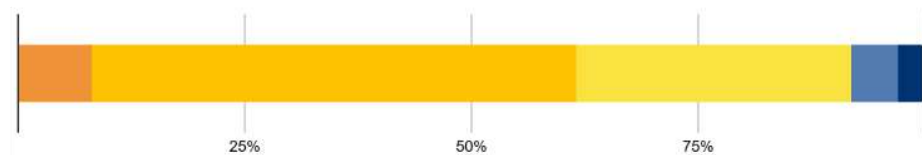
＜雑感＞

プログラムの満足度平均は3.69と達成感を得られなかった生徒もやや見られた。グループワークに取り組む時間の確保がやや不足、一方でコツをつかんだ生徒のスライド作成スピードは速かったことから、難易度の調整が課題となった。

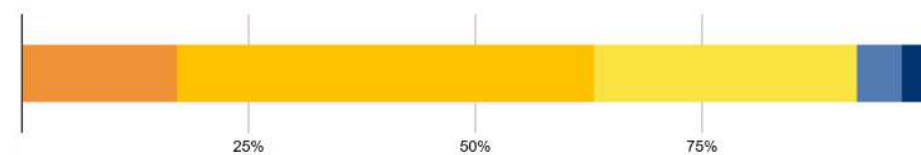
生徒事後アンケート結果（プログラムを通じて体得したこと・河東中学校）

■とても思う ■思う ■どちらとも言えない ■そう思わない ■全くそう思わない

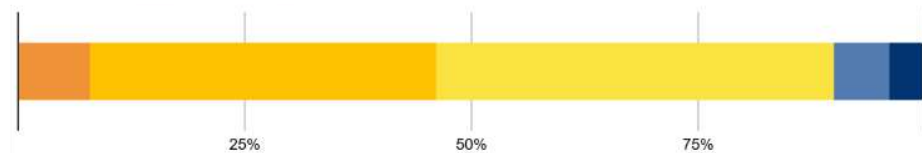
地域の課題について、関心が高まった



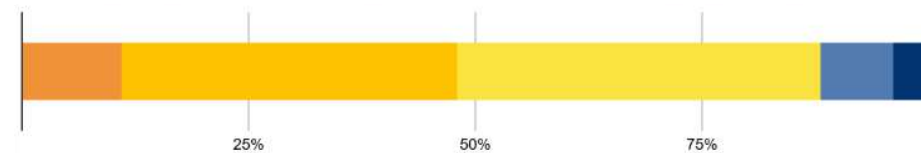
社会性やコミュニケーション能力が身についた



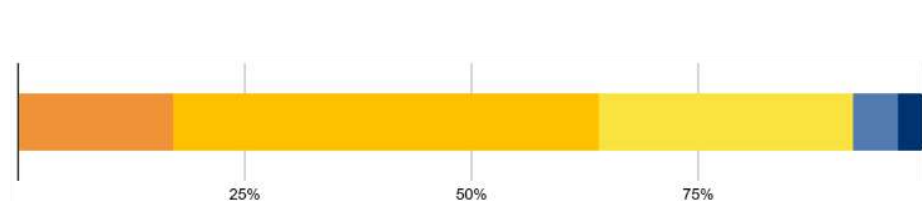
地域の課題について情報を集め、適切に取捨選択する力が身についた



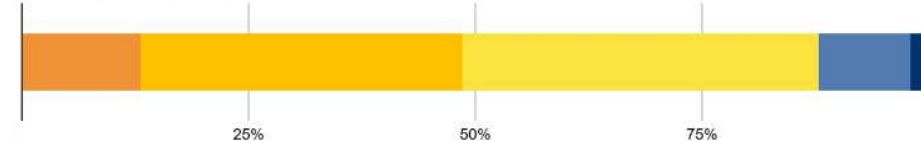
地域の課題について、地域の人たちと行動していきたい自分ができるところを見つけたことができた



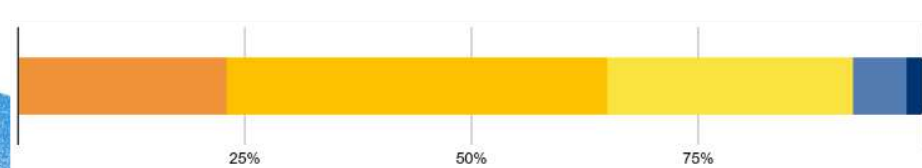
計画性を意識して活動を進めることができた



地域の課題について、今後地域の人たちと行動していきたい



ワークや発表を通じて達成感を得ることができた



生徒感想／コメント（河東中学校）

プログラムを通じて得た学びや新しい発見、心に残ったこと

私たちの活動などには、いろいろな人が関わってくれていると知りました。

たくさんの情報から、どれが視聴者からみてわかりやすいか考えることが大切だとわかった。

課題は表に見えるものがすべてではないことが分かりました。

自分たちでも行動を起こせば周りの人に影響を与えられる。

もっと学びたかった・聞きたかった・やりたかったこと

他の場所にも職業体験をしに行きたかった。

もっと長い期間がよかった。飲食店などをふやしてほしい。

もっとスライドの工夫がしたかったのと、発表時間がもう少しほしかったです

ミエタなどの企業系や他にどんなことをやっているか聞きたかった。

講師へのメッセージ

一ヶ月間ぐらいの間に様々な事を学んで体験してすごく貴重な経験となったのでこれから学んだことをいかしてもっと頑張りたいと思いました。

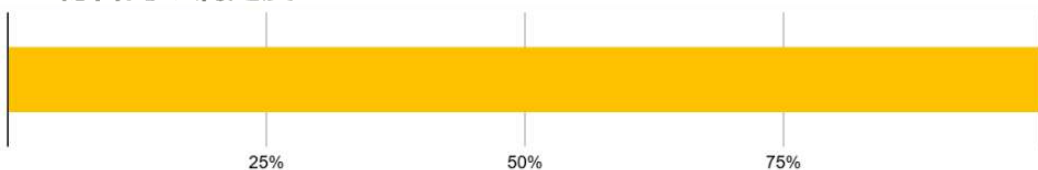
アドバイスがわたしが気づけなかったことを的確に話しててすごいと思いました。

すごく話がわかりやすく聞きやすかったし面白くて楽しかったです。

教員事後アンケート結果（河東中学校）

<総合的な満足度>

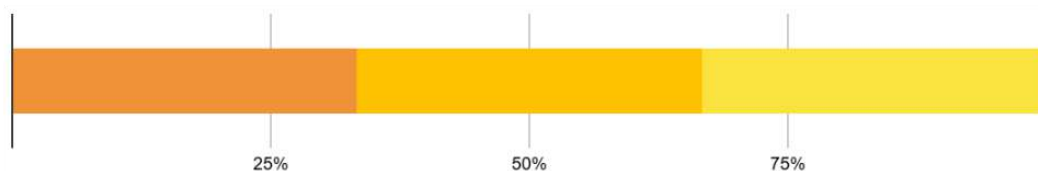
■ 5 ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1



満足度平均：4.00

<講義とワークの難易度>

■ 難しすぎた ■ 程よい難しさだった ■ 普通だった ■ やや簡単だった ■ 簡単すぎた



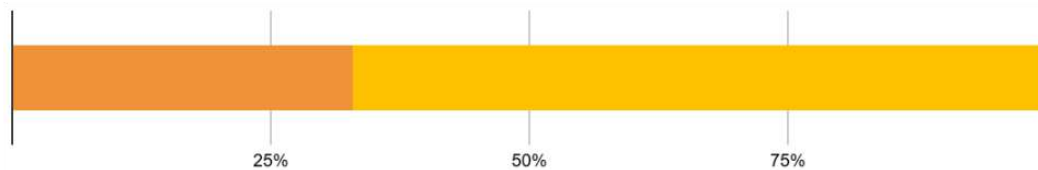
【理由】

4時間連続の講義の際に、手が止まっている生徒が多かったため。

設問の意味がわからずに、教師のサポートがなければ次に進めない生徒が多数見られていたため。

<行事全体の時間設定>

■ 長すぎた ■ 適切だった ■ 短すぎた



【改善点】

時間が押していた部分があり、結果的に20分ほど時間のロスが見られたため、ラストの方はお1人ずつコメントをする等の対応があってもよかったのではないかと感じた。

<雑感>

プログラムへの満足度は高く、難易度は普通であったとの評価。4コマまとまった時間でプログラムを進行したが、集中力が途切れた生徒を復帰させる手立てに課題があった。

メディア掲出

メディア掲出

公式サイト

「ささっとー」
(読売新聞ニュースサイト)

合計10記事掲載

- ① 海の幸！山の幸！ 宗像の中学生が地元食材の魅力を学んでPR
- ② 宗像の中学生が環境改善に挑む！
「むなかたSDGs探究」が開講
- ③ 中学生が宗像特産チョコ開発 商品の魅力どう伝える？
- ④ 宗像の中学生が環境改善に挑む！
課題を調査し解決案を熟考
- ⑤ 大学生と海の課題解決を考える座談会 宗像・中央中の1年生



メディア 掲出

公式サイト

「ささっとー」
(読売新聞ニュースサイト)

合計10記事掲載

- ⑥ 特産品で作ったチョコの魅力を届けよう！ 宗像・自由ヶ丘中の生徒が商品PR策を立案
- ⑦ 働くことから地域の魅力を深掘り！ 宗像・河東中で「SDGs探究」
- ⑧ 中学生考案のチョコが商品に JR 博多駅での販売会は盛況
- ⑨ 宗像の中学生が環境改善に様々なアイデア グループで最終発表
- ⑩ 中学生が道の駅むなかたで販売会 地元食材のメニューで魅力発信



新聞

中学生と大学生 座談会
海洋ごみなど解決策探る

学芸プログラムは、読売新聞西部本社と宗像市などで行われる「海をまもろう」の企画で、実行委員会の主催で、日本財団の助成事業「海と日本プロジェクト」の一環として実施されている。市内の中学校、中央で、11月1日から1年生150人が、未利用魚の有効活用に取り組みベンチャー企業「ベンチャー」(福岡市)の井口剛志社長の指導の下、行われた。



読売新聞地域版 10月17日付朝刊

西日本新聞地域版
8月27日付朝刊

宗像の食材使い チョコ商品
老舗洋菓子店、福岡女子大と連携

自由ヶ丘中3年140人
アナゴ、しょうゆ…若い発想魅力発信
開発成功ならバリエーションも

宗像市立自由ヶ丘中学校の3年生140人が、老舗洋菓子店「チョコ」(福岡市)と連携して、地元の食材を使ったチョコレートを開発している。この取り組みは、市が推進している「食育」の一環として行われている。学生たちは、アナゴ、しょうゆ、味噌などの地産品を原料として、様々な味のチョコレートを開発している。この取り組みは、地元の食材の活用と、学生の発想力向上を目的としている。

西日本新聞地域版 9月25日付朝刊



自由ヶ丘中生ら 福岡で販売会

宗像市立自由ヶ丘中の3年生が、福岡市で販売会を開き、地元の食材を使ったチョコレートを開発した成果を発表した。販売会は、19日、福岡市の「福岡県立中央文化センター」で開催された。学生たちは、地元の食材を使ったチョコレートを開発し、それを販売した。この取り組みは、地元の食材の活用と、学生の発想力向上を目的としている。

読売新聞地域版 11月14日付朝刊

チョコのスイーツ
商品化の1品決定

宗像市立自由ヶ丘中の3年生140人が、老舗洋菓子店「チョコ」(福岡市)と連携して、地元の食材を使ったチョコレートを開発している。この取り組みは、市が推進している「食育」の一環として行われている。学生たちは、アナゴ、しょうゆ、味噌などの地産品を原料として、様々な味のチョコレートを開発している。この取り組みは、地元の食材の活用と、学生の発想力向上を目的としている。

毎日新聞地域版
7月26日付朝刊

老舗チョコ専門店、大学とコラボ
地元食材使い商品開発へ

宗像自由ヶ丘中3年140人
アナゴや醤油「発想は面白い」

楽しみながら世界挑戦

宗像市立自由ヶ丘中学校の3年生140人が、老舗洋菓子店「チョコ」(福岡市)と連携して、地元の食材を使ったチョコレートを開発している。この取り組みは、市が推進している「食育」の一環として行われている。学生たちは、アナゴ、しょうゆ、味噌などの地産品を原料として、様々な味のチョコレートを開発している。この取り組みは、地元の食材の活用と、学生の発想力向上を目的としている。

メディア掲出

WEBメディアほか

海と日本PROJECT inふくおか
・ 10月31日掲出開始

宗像市広報誌
・ むたなかタウンプレス1月号